

SPECIAL SESSION 02

函館西部地区バル街の挑戦

青函交流の、新しいバル街が始まっています。

「バル」とは、喫茶店、立ち飲み屋、食堂などの社交場として利用されるスペイン人の生活には不可欠な存在。それを函館の旧市街・西部地区に再現しようとしたのが2004年から始まった「バル街」。今回はこの取り組みの中心人物である、「レストラン・バスク」のオーナーシェフ深谷宏治さんにお話を伺いました。



函館西部地区バル街
実行委員会 実行委員長
深谷 宏治さん

函館西部地区バル街について

2004年2月の第一回は、イベントの前夜祭としての開催で25店舗の参加でした。そこから定期的な開催を続け、現在の参加店舗は70以上。西部地区はもちろん青森県から参加していただく店舗もあるなど、10年間で多くの協力を得ながら大きく発展しました。そして、日本全国にノウハウを提供することで、外側にも広げることができたのは嬉しく思います。新幹線開業後は、東北とさらに密な連携を取りながら、食と街の魅力を発信したいと思います。

INFORMATION

第23回バル街 2015年4月19日(日)開催予定

函館西部地区バル街

- 開催時期/春、秋の2回開催
- 料 金/前売りチケット1冊3500円(飲食券5回分)
- 開催場所/末広町を中心に、西部地区の参加店舗70店舗で開催
- アクセス/市電「十字街」電停、下車 徒歩1分
- 駐 車 場/無(公共交通機関をご利用ください)
- 問合せ先/函館西部地区バル街実行委員会
TEL.0138-56-1570(レストラン・バスク)



写真提供 函館西部地区バル街実行委員会

バル街誕生のきっかけと ここにしかない場所の魅力

スペインのバスク地方で修業を積み、料理技術はもちろん、当地の風土や文化まで吸収した深谷宏治さんが故郷である函館に「レストラン・バスク」をオープンしたのは1981年のこと。当時はまだマイナーな存在だったスペイン料理を、基本的に沿い、ていねいにアレンジして皿に表現する彼の料理は評判を呼んでいきました。



「スペイン人にとって食事はコミュニケーションの一部です。バルに行き友人や知人と楽しい時間を過ごす。そ

んな文化を函館でも再現できないかと思っていました」深谷さんはスペイン料理という「文化」を広めたいという想いを抱き続け、それを形にしたのが「2004スペイン料理フォーラムin HAKODATE」の前夜祭として実施された第1回バル街でした。「スペインもそうでしたが、旧市街は魅力にあふれていて発見も多い。そこにもうひとつの大きな魅力である地域の「食」を絡めることで街の良さを多面的に発信する機会になったのだと思います。

バル街を盛り上げるための、 数々の工夫。

バル街は単純にはしご酒を楽しむイベントではありません。生ハム、パン、ワインなどの「振る舞いサービス」、着物で参加した

方が様々なサービスを受けられる「きものdeバル」など様々な協賛イベントのほか、参加店で実施される音楽やダンスのライブイベント、日中から楽しめる「昼バル」、余ったチケットで楽しむ「あとバル」など幅広い楽しみ方が可能で、今では地元客のほか、観光客も多く訪れる函館屈指のイベントとなっています。

「確かにある程度の知名度になりましたし、参加していただく方々も多くなりました。しかし、参加していただいた方々に楽しんでいただく工夫は怠ってはいけません。まちの再発見を念頭に、開催後はそれぞれの反省点を出し、次はもっと楽しめるバル街になるよう日々アイデアを出し合っています」深谷さんを中心とする函館西部地区バル街実行委員会は、現状に満足せず、さらなる高みを目指しています。

函館から全国的に 広がる「バル街」効果。

現在、バル街やバル街のイベントは、全国40ヶ所以上で開催されていると言われています。本家である函館西部地区バル街も青森や弘前、石巻などに店出し、ノウハウを教えるなどの交流を行っているほか、バル街開催時には多くの自治体や飲食店組合などが視察に来て、そのノウハウを学んでいきます。「視察に来られたり運営について聞かれたりした場合、バル街開催のノウハウを直接教えていまして、それを基礎にして開催しているバル街が全国に40ヶ所以上あります。バル街が多くの場所で開催されることで認知度が上がり、ひいては我々も含めた全体のレベル向上につながれば良いと考えています」。

全国的な人口減少の流れは当然ながら函館にも影響を与えています。コンパクトな街を形成する中で、函館観光の中心である旧市街地や、よい建物をいかに残していくか。深谷さんは「将来的には年2回のイベントではなく、恒常的にバル街的な楽しみ方のできる街になればいいと思います。そうなるように店出しやすい環境づくりなども模索したいですね」と、長期的な目標を話します。

「街への愛情」バル街はそんな想いを持った人たちの行動力で、多くの人を惹きつけるイベントに成長しました。

新幹線開業で、 函館のバル街はどう変わるか。

2015年度末に開業する新幹線によって、函館と東北や北関東とのアクセスが飛

躍的に向上し、人の流れが大きく変わります。新たな時代の到来によってバル街はどう変わっていくのでしょうか。「新幹線開業後の具体的な案が出ているわけではないので、今の段階では何ともいえませんが、時間的な距離が縮まることで、料理人同士の交流は加速するでしょうし、お客様も行き来がしやすくなるので、バル街を同時開催して周遊してもらおうというのも可能になるでしょう。いずれにしても私の目標は「青函圏で今までなかった価値観を創る」ということです。今後もそれに向けて様々なつながりを作りながらやっていきたいですね」。

バル街という今までに無かった取り組みが、新幹線という新たな交通インフラを手に入れる。コンテンツとインフラが融合することで、確実に新しい「何か」が生まれることでしょう。